

## 学園だより

## 広島修道大学50周年記念事業報告

## ■50周年記念式典・祝賀会

11月6日、本学が修道短期大学を母体に4年制大学を開設してから50周年を迎えたことを記念して、学術シンポジウム、記念式典並びに祝賀会をリーガロイヤルホテル広島で開催した。

ロビーでは「50年の歩み展」と題し、記念展示を行った。また、本学法学部国際政治学科開設20周年を記念したシンポジウムと、第46回同窓大会も同日開催された。

## ◇50周年記念関連 開催プログラム

## 1) 学術シンポジウム「&lt;修道&gt;

—その軌跡と展望—を開催

本シンポジウムは、3名のパネリストが日本史、中国思想史、西洋哲学の側面から<修道>の解釈をグローバルかつ歴史的に紐解き、過去から未来への示唆について論じた。コメンテーターの南山学園理事長マルクス氏から、大学を取巻く危機的状況に立ち向かうには、大学の特色を強く打ち出すことが重要なことであり可能性を広げることに関がると提言を受けた。最後に、本学の建学の理念に基づいた教育方針についてコーディネーターの相馬教授が説明した。

コーディネーター：相馬伸一（人文学部教授）

パネリスト：落合 功（商学部教授）、藤井 隆（法学部教授）、松田克進（人間環境学部教授）

コメンテーター：ハンスユージェン・マルクス氏（南山学園理事長）

## 2) 記念式典

文部科学省の河村私学部長はじめ約300名の来賓を迎え、午前11時からロイヤルホールで開催された。林理事長の式辞で始まり、文部科学大臣、私立大学連盟副会長、石田学園理事長の祝辞をいただき、市川太一学長が「次の50年に向けて」と題し本学の使命を踏まえた取組を紹介し、今後の

発展に向け決意を述べた。最後に、狂言役者の丸石氏が50周年記念式典を寿ぐ祝いの舞「福の神」を披露した。

式辞：理事長 林 正夫

祝辞：文部科学大臣代理 河村潤子氏

（文部科学省高等教育局私学部長）

八田英二氏

（日本私立大学連盟副会長・同志社大学学長）

石田恒夫氏

（学校法人石田学園広島経済大学理事長）

挨拶：市川太一（学長）

祝舞：丸石やすし氏（卒業生・狂言役者）

司会：青山高治氏（卒業生・中国放送アナウンサー）

## 3) 記念祝賀会

挨拶：宇野伸浩（副学長）

乾杯：大田哲哉氏

（広島商工会議所会頭・広島電鉄株式会社代表取締役会長）

祝辞：有岡 宏氏（広島県副知事）

王 志偉氏（中国・暨南大学学長補佐）

呂 博東氏

（韓国・啓明大学校国際学大学日本語学科教授・前副総長）

広島銅蟲制作者紹介：

若山裕昭氏（広島市立大学芸術学部学部長）

演奏：吹奏楽団

学歌斉唱：混声合唱団

閉会挨拶：廣光清次郎（経済科学部長）

司会：青山高治氏（卒業生・中国放送アナウンサー）

## 4) ジョイントステージ

出演者：

落語：古今亭菊丸氏（卒業生・落語家）

卒業生によるバンド演奏

1) いちごの木 2) カントリーマスターズ

3) HCCキューバンナイツ

司会：放送研究会（明賀夢実さん、増田真吾くん）

### ■50周年記念講演会（小松弥生氏）

11月5日、図書館ライブラリーホールにて、本学元学長の隅田哲司氏の令嬢、小松弥生氏（文部科学省文化庁文化部長）による記念講演が行われた。「学問への思い、学生への思い」のテーマで、隅田元学長の本学内外での活動や家庭での思い出などが語られた。

### ■法学部国際政治学科開設20周年記念シンポジウム

法学部国際政治学科は2010年に開設20周年を迎えた。これを記念して、2010年11月6日にシンポジウムを開催した（於：リーガロイヤルホテル広島）。市川太一学長の開会挨拶に続き、矢田部順二教授が設立から今日までの学科の歩みを紹介した。続いて広本政幸教授の司会で、パネリストが今後の国際社会の展望と、その中での日本、広島のあり方を語った。

高原明生氏（東京大学大学院教授）は東アジアの統合を例にとり、国際政治研究が理論・地域研究・歴史・新しい問題、の四つの研究領域からなり、それを学ぶことの意味と魅力を語った。大島寛教授は、日本が依然新たな価値観を構築できていないとして、日本は「自立した対米関係」を目指すべきと強調した。佐渡紀子准教授は脅威の多様化に着目し、広島が平和を発信し続けるためには多様な被害者との共感と協働が重要と指摘した。王偉彬教授は、中国と日本は異なる法則で発展しており、今後中国と日本は依存と競合の時代に入ると分析した。

シンポジウムは参加者との質疑応答ののち、司会者より、国際政治学科が地域社会の支援のもとさらなる発展を目指していくとの決意が述べられ、閉会した。

パネリスト：

高原明生氏（東京大学大学院教授）

王偉彬（法学部教授）

大島寛（法学部教授）

佐渡紀子（法学部准教授）

司会：広本政幸（法学部教授）

### ■明治法曹文庫講演会

テーマ：「江戸から明治へ法の継受を考える」

11月10日、本学50周年記念の一環として、山口繁氏（元最高裁長官）による明治法曹文庫記念講演会が「江戸から明治へ法の継受を考える」を演題として開催され、本学教職員・学生のほか、広島県の法曹関係者や一般の方々を含めて、およそ300名が耳を傾けた。

山口氏は、本学が構築している「明治法曹文庫」に触れ、日本法の近代化を物語る格好の実物教材であるから、できるだけ多くの人が観覧し、そこから学んでほしいと話された。

### ■出版物

「広島修道大学五十年史」・「目で見る修大50」が完成

50周年を記念して、「広島修道大学五十年史」・「目で見る修大50」を発行した。

#### ●広島修道大学五十年史

・914ページ（一部カラー）

・販売価格 3,000円（税込）

#### ●目で見る修大50（写真集）

・105ページ（カラー）

・販売価格 2,000円（税込）

取り扱い店

広島修道大学生生活協同組合ブックストア

TEL (082) 848-5125/FAX (082) 830-1372

フタバ図書（広島市西区観音本町2-8-22）

TEL (082) 294-3322/FA× (082) 294-0170

### ■『明治法曹文庫目録』の「増補改訂版」を刊行

本学開学50周年記念事業の一環として、『明治法曹文庫』の目録の冊子「増補改訂版」を、本学の「『明治期の法と裁判』研究会」（代表：法学部教授矢野達雄）と協同して刊行した。

幕末から明治維新の王政復古、更に近代的法治国家形成へと変遷する歴史過程を如実に示すものであり、わが国法治国家の原理の淵源を探求し研究する一級の一次資料といえる。

『明治法曹文庫目録』増補改訂版（非売品）

監修：矢野達雄、加藤高

編纂：森上幸雄

発行：広島修道大学図書館 2010年11月4日

## 第63回 修道高等学校卒業式

平成23年3月5日(土)第63回修道高等学校卒業式が、昨年3月に竣工された総合体育館での最初の卒業式として執り行われ、288名の卒業生を送り出しました。そして、新たに修道学園(中・高)同窓会に288名が入会することとなりました。

### 〈同窓会長祝辞〉

#### 同窓会長祝辞

修道高等学校第36回卒業式に臨み、修道学園中・高同窓会を代表いたしまして、ひとことお祝いの言葉を述べさせていただきます。

皆さんご卒業おめでとうございます。

本日めでたく卒業された皆さんを、我が同窓会にお迎えましたことは、同窓生一同心からの喜びであります。

この度の栄えあるご卒業は、皆さんの日々たゆまぬ努力の結晶であることはもとより、これまで慈しみ、育んでこられた保護者の皆様や校長先生をはじめ多くの教職員の方々の献身的なご指導によるものであることも忘れていただきたいと思ひます。

ご存知のように同窓会は、修道の名のもとに、世代を超えて相集い、会員相互の親睦と母校修道の発展を目的として日々活動を続けており、本年の8月で創立100周年を迎えます。2万8千余名を数える多くの同窓生は、政治、経済、文化、法曹、教育、医療等のあらゆる分野で活躍をされ、わが国はもとより広く国際社会において貢献しておられます。

やがて、皆さんも各界で活躍されることになり

ますが、どうか地元広島はもとより他の地域や職域の同窓生と、積極的な交流を図ってください。

論語に次のような言葉があります。「四海の内、皆兄弟なり。」四海は四つの海。すなわち世界、あるいは世の中を指す言葉です。「兄弟がいないなどといって悲しむことはない。人に真心をつくしてつきあえば、世の中の人、皆、君の兄弟である。」という教えです。皆さんは、これから折りに触れ、数多くの同窓生に接する機会があると思ひます。

人と人との交流には、この言葉が説くように、真心で接していくことが大切であると思ひます。やがて結ばれた相互の強い絆は、必ずや皆さんの大きな支えになるものと確信をいたしております。

さて、皆さんは今日を境として、自身の「志」の実現に向けてさらなるチャレンジを続けられますが、その道のりには、多くの艱難辛苦が立ちほだかると思ひます。

かかる時にこそ、修道で培われた“修道魂”を遺憾なく発揮され、力強く乗り越えていただきたいと念じております。

結びに、皆さんの今後ますますのご健勝を心からお祈りいたしますとともに、次代を担う有為な人材となられることを切望して、私のお祝いの言葉といたします。

本日のご卒業、まことにおめでとうございます。

平成23年3月5日

修道学園中・高同窓会  
会長 大田 哲 哉

